

広報

こだま

2014

Vol.18

【栗田病院 広報誌】

院長就任挨拶

院長 安部 秀三

入社式

広報散歩 マロンドイケア

フォーカス くりた人

社会復帰施設部 責任者 精神保健福祉士 菅谷文嗣



有朋会・理念 ～私達の求める姿～

私たちの使命は、患者様、利用者様、ご家族様、地域連携機関、地域住民、有朋会職員と
いったあらゆる方々の「こころ」に、温かな（ホットな）灯りをともすこと、笑顔を増やし続ける
ことです。その使命を果たすことで、以下3つの姿を実現します。

1. 医療・介護・福祉を統合した高品質のサービスを設計・開発し提供し続けている。
2. スタッフみなが有朋会の一員であることに胸を張っており、患者様、利用者様、ご家族様に
質の高いサービスを提供している。
3. 働きたい・学びたいと希望する方が絶えることなく集まってくる。



医療法人社団 有朋会
栗田病院

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505
TEL: 029-298-0175 Mail: yuhokai@yuhokai-kuritah.com
<http://www.yuhokai-kuritah.com/>



院長就任挨拶

平成26年4月1日に安部秀三副院長が新院長に就任となり、4月2日には就任所信表明式が執り行われました。新体制となる栗田病院にぜひ期待していただきたいです。
就任にあたり、院長より挨拶と今後の意気込みをお伝え致します。

このたび4月1日より栗田病院の院長に就任しました。これまで私は当院に平成10年から、副院長としては平成15年より勤務してきました。今年で16年目になります。私が当院に勤務し始めた当時を思い起こしますと、病院の行事で本格的な盆踊り大会、キャンプ、年末の演芸会など患者様と職員が一緒に興じ、牧歌的で穏やかな従来の精神医療の雰囲気が残っていました。一方社会情勢は、その当時から現在まで超高齢化、少子化、人口減少社会、経済的にはバブル崩壊後の失われた20年、リストラなど、様々な変化がありました。その社会の変化に呼応して精



神医療においては、メンタルヘルスの問題でうつ病や神経症圏の外来患者様の増大、年間自殺者数3万人、認知症の増加などの大きな変化が生じています。私は当院で日々診療に明け暮れておりましたが、精神医療は上記のとおり様変わりしていくのを実感しておりました。さらにこれからは同様に精神医療の姿は時代の要請に応じて変化し続けていくものと考えております。

医療法人社団有朋会栗田病院は昭和42年に開設し約半世紀を迎えようとしています。初代の院長から一貫して地域の精神医療の向上をはかるべく職員一団となって運営してきております。平成に入り地域で障害者が生活できる環境をめざし、当時はまだ地域に少なかった精神科デイケア、社会復帰施設を開設し、障害者の方が入院医療から地域での生活を実現するために入院病床を段階的に削減し、地域で活動する職員を増やし訪問リハビリテーション部門を充実してきました。また、私が赴任した平成10年からは今後地域のなかで重要な課題となる認知症分野についてもいち早く取り組んできました。認知症患者治療病棟、重度認知症デイケア、物忘れ外来を開設し、その後認知症デイサービス、認知症疾患医療センターを運営しています。これからも地域との対話をしつつその実情を診療に取り込んでいき、地域の病院としてのその存在価値を追求していきたいと思

います。これまで述べてきたことを実現することはそう簡単なことではありません。そのため院長としては、まず前提として当法人の職員が専門職としての能力を継続発揮できるような職場環境を整備し、職員全体が同じ方向性を共有していくことをすすめていきます。その上で職員各々が力量を向上させ、チームとしてさらに強い力になるよう、教育やコミュニケーション

ンを充実させていきたいと思っております。地域の実情や診療報酬制度が変化していくなかで、職員全体の力でより先進的な試みを導入し、地域の中でより高度な医療を目指していきたいと思っております。さらに地域の医師会、医療機関、介護福祉施設、さらに各種関係機関などとの対話を広げ、当法人の活動や方針を理解していただき、地域の要望にこたえられるようより緊密な地域連携を構築していきたいと思っております。
今後とも地域から信頼される病院を目指して職員全員で取り組んでいきますので、医療法人社団有朋会にご支援とご協力の程よろしくお願い致します。
(院長 安部秀三)



入社式 —新しい仲間が増えました—

平成26年4月1日、新入職員入社式を行いました。
今年度は看護師2名、薬剤師1名、作業療法士3名、精神保健福祉士1名、心理士1名、介護福祉士2名、看護助手4名の合計14名が入社しました。
理事長からの挨拶や新入職員の代表挨拶、辞令交付などが行われました。



新入職員からの言葉

「自分の職種から見た栗田病院の魅力」

看護師 川野菫子

栗田病院は、多職種との連携・コミュニケーションが円滑に行われています。

職員同士が顔を合わせれば自然と挨拶が交わされ、病院全体が笑顔で溢れているので、職種の垣根を超えた関わりを持てる事が魅力であると感じています。

さらに、多職種がそれぞれの専門的視点から捉えた様々なアプローチで患者様のケアを行っているため、現状に適した支援を提供している環境が整っているところも魅力の一つです。

私の配属となる急性期治療病棟は、医師や看護師のみでなく作業療法士や精神保健福祉士などコメディカルも充実しています。私は看護師なので、そ

の特性を活かして患者様に安心した入院生活を送っていただけのお手伝いしていきたいです。
先輩看護師の皆さんの活気に満ちた姿や常に笑顔で接する姿は、患者様に安心感を与える存在となっていると思います。私は入社したばかりなので、先輩方を見習って患者様に笑顔で接し、患者様の想いを理解し対応できるように日々最善を尽くしていきたいと思っております。



看護師 川野菫子

「自分の職種から見た栗田病院の魅力」

作業療法士 舟木峻

私が感じた栗田病院の魅力は、第一に職種間わず患者様を中心としたチームとしての連携が強いこと、そのためにスタッフ間の交流が積極的に行われていることです。私が就職活動で栗田病院に見学に来た際、病院の理念や目標についての説明を受けました。その中で、スタッフ同士が日頃の感謝をカードに書いて伝える「HOTカード活動」や、職員運動会や新人交流バーベキューなど、楽しい行事を企画し、スタッフ間の交流を目指した「とっぴくりん活動」といった独自の活動に強く惹かれました。これらの活動によって、スタッフ同士の強い結び付きが生まれ、チーム医療として最大の力が発揮でき、質の高い医療、介護に繋がると感じました。

第二に、作業療法におけるプログラムの多様性、個別性です。特徴的な点は、一週間の振り返りと今後の目標を患者様自身が考え、目的や目標をしっかりと自分で持つことができるプログラムや、患者様だけでなくそのご家族様も対象とした家族教室など、個別性のある作業療法を多く行っています。こ

れにより、患者様一人ひとりの病状や生活背景に合ったプログラムを行うことができ、患者様のより良い生活を支援することができると感じました。
今後はこれらの魅力を肌で感じ、また新たな発見をしながら、様々な活動へ積極的に参加し、チームの一員として患者様の気持ちに寄り添える作業療法士になれるよう、日々自己研鑽を続けていきたいです。



作業療法士 舟木峻



広報散歩

「マロンディケア」

部署の紹介

マロンディケアは重度認知症患者デイケアという認知症専門のデイケアです。対象となるのは地域で生活されている認知症の患者様であり、自宅から通所されりハビリテーションを行い、本人やそのご家族様の在宅生活を支援しています。認知症患者様に向けたりハビリテーション施設は介護保険で扱われるデイサービスが多くを占める中、この地域では数少ない医療保険適応の通所施設です。

スタッフは看護師・作業療法士・精神保健福祉士・介護福祉士・看護助手の計10人で構成され、それぞれの職種が各専門分野の知識を活かして患者様のケアに取り組んでいます。

利用するまでの流れ

まず栗田病院で診療を受けていただく必要があります。認知症と診断され主治医の指示や希望があった場合には見学や体験通所を勧めています。その後本人様やご家族様と登録手続きを行い通所開始という流れです。

通所にあたっては主治医や担当のケアマネジャーから相談を受けるケースも多いです。

マロンディケアの特色

認知症のケアを行うにあたり、たくさん職種が関われる事が強みだと感じています。

それぞれの専門職の視点で利用者様やご家族様を支援できるので、その方にあったサービスを提供する事ができます。

例えば作業療法士です。利用者様の残存機能に目を向けこれからの生活で維持できる機能がどの

くらいあるのか、その機能を在宅生活でどのように生かす事ができるかなど、利用者様のアプローチ方法を展開しています。



精神保健福祉士であれば、ご家族様と密に連携を図る事が多いです。認知症の治療はご家族様の協力が不可欠です。

デイケアに参加していただく事で得た情報をもとに、現在必要な支援や今後求められるものなどを的確に伝える事が役割となっています。

もう一つの特徴として、先述した通りマロンディケアの利用は医療保険が適応となります。介護保険の要介護度による利用回数等の制限もなく、ご家族様と相談のうえ決める事ができます。また、自立支援医療制度を利用する事もできますので、医療負担の軽減も可能な場合もあります。

マロンディケアで提供するプログラム

大きく二つに分けてプログラムを提供しています。まず一つは認知機能のリハビリテーションを目的としたものです。回想法や脳トレ、音楽療法などを中心に行っています。脳の機能を活性化させる事が目的ですね。

もう一つは身体機能へのアプローチを目的としたプログラムです。レクリエーションなどを通して上

や、文書の管理や設備予約、スケジュール管理などを電子上で行える。

利用者様との関わり

社会復帰施設では利用者様が自立した生活を送るために、職員の支援を受けながら共同生活を行っています。利用者様によって必要とする支援は異なるので、一人ひとりと定期的に面談を行い、悩みや今後の課題を整理して支援計画を作成し、それぞれに合った支援を提供できるようにしています。

具体的には金銭管理や服薬、自炊など自立した生活を送るためのお手伝いをしています。

印象に残ったエピソード

施設の一つである「くりあん」では週2回利用者全員で夕食を作っています。他にも年末年始やGWなど連休の時には、希望者のみで共同調理を行っています。そういった共同での活動を通して利用者様とコミュニケーションをとれるようにしています。

利用者様の中には普段の生活では見せない表情もぞかせる方もいるので毎回楽しみにしています。

利用者様は日中のデイケアなど別のサービスを利用している方が多いですが、休みの日などは施設にこもりがちで運動不足の方も多いため、そのため希望者を募って少し遠出をして公園を散歩したりする事もあります。地域のお祭りに参加した時には、「まるで海外旅行に来たように楽しかった。」と喜んでくれる方もいて良い思い出として印象に残っています。

精神保健福祉士を目指したキッカケ

私はおばあちゃんコだったので福祉の仕事をしたと考えていたのですが、高校生の頃に地域福祉のイベントに参加した事をきっかけに、社会福祉士を目指し、福祉系の大学に入学しました。大学で精神保健福祉士という職業を知り、その講義や実習を経験するうちに専門性をもっと高めたい、もっと深く精神保健福祉について知りたいと思うようになり、

肢や下肢を使った訓練を行ったり、食事や排泄など日常生活を送る上で必要な身体機能への働きかけをしています。

自宅であるべく自身の力を発揮し生活できるようにプログラムを組んでいます。

今後の課題

マロンディケアに通所される方は一口に認知症と言ってもその種類や症状は様々です。特に最近では若年性の認知症が増えてきているのをご存知でしょうか。働き盛りの50代で認知症を発症する場合もあり、本人はもちろんご家族へのストレスが非常に大きいと言われています。他にも前頭側頭型認知症と呼ばれる問題行動が突出して現れるものもあります。

そういった方々は集団での行動が難しく本人や家族の抵抗も強いので、個性を持ったアプローチを行う必要があります。より個人個人に合ったプログラムを提供する事が求められます。今後の課題の一つですね。

その人らしさを見つけていきたい。

マロンディケアでは月ごとに外出や料理など特別なイベントを行っているのですが、利用者様の中には普段のプログラムでは表出されない一面をそういったイベントを通して見せてくれる方もいます。多面的な関わりの中で新しい発見をする事が私たちの喜びにも繋がります。

みなさんに伝えたいのは、少しでも早く専門医の診断を受けてリハビリを行っていただきたいという事です。認知症の方もいろんな事を考えているんな想いを持っています。その表現が苦手なだけです。私たちはそのお手伝いができます。

利用者様の生きてきた歴史や現在の生活を見直す事で、その人らしさに近づけるような気がします。症状や状態だけではなく想いに目を向け、その想いを引き出してあげる事が私たちにできる最も重要な事だと感じています。

資格取得やPSWとして働くことが出来る職場で働くことを目指すことになりました。

やりがい

それは人との繋がりで。利用者様やそのご家族様との関わりはもちろんですが、有朋会の職員や外部の方とも連携して共通の課題を共に達成できた事にやりがいや達成感を感じます。利用者様とも共に喜ぶたいので利用者様自身が必要と感じていることについて支援を提供していきたいです。

伝えたい事

自立生活を目指す利用者様のために、私たちにできる事はまだまだたくさんあります。

そして「広報こだま」を通して、社会復帰施設や私たちの仕事に興味をお持ちいただいた方がいましたら気軽に足を運んでいただきたいと思います。法人内外を問わず施設の見学もお受けしています。今回の記事をきっかけにまた新たな繋がりができれば嬉しいです。



フォーカス



社会復帰施設部 責任者

精神保健福祉士 菅谷文嗣

当院で働く、現場職員の声をお伝えします。

私の役割

私は現在、有朋会で社会復帰施設部の責任者をしています。社会復帰施設とは病気や障がいによって自宅での生活が困難となった方たちが、スタッフの支援を受けながら集団生活をおくる施設です。入所されているのは長期入院によって家族の支援が難しくなった方や、家族から離れて自立した生活を指す方など利用する経緯は様々です。

また、精神保健福祉士としての役割もあります。法人内の精神保健福祉士の中でも経験年数が長くなってきたので、勉強会やミーティングなど教育に関する企画にも関わっています。求人活動のために学校への挨拶回りも重要な業務です。また、法人外の事業所職員や精神保健福祉士とも連携を図り関係作りを行っています。

部署内の業務や職種としての役割の他に、IT化委員会という取り組みにも参加しています。有朋会では電子カルテやグループウェア(※1)を導入しており、170台以上のパソコンが常備されています。そういったネットワークや機器の管理、ITを用いた業務の提案などがIT化委員会の大きな役割です。導入時にはたくさん部署に顔を出していたためかIT関係の業者さんと勘違いされた事もありました。

※1 グループウェア：部署や職種毎にメールアドレスを持つことで情報のやりとりをスムーズに行う事

診療案内

外来担当医一覧表

受付時間 午前 8:00～11:30 / 午後 11:31～15:00
 診察時間 午前 9:00 開始 / 午後 13:30 開始

	診察室	月	火	水	木	金	土
午 前	1 診	安部	片野	安部	栗田	鈴木	水挽
	2 診	堤	高橋	堤	田口	堀	第3.5週 吉川 第2週 鈴木 第4週 安部
	3 診			木滝	木滝	太刀川	高橋
	5 診					井出	田口
午 後	1 診	栗田					休診
	2 診		袖山	木滝		第2.4週 安谷屋	
	3 診		佐藤	竹下		渡辺	
	6 診					井出	

初めての外来受診・入院を希望される方へ

1. 電話で患者様の情報や現在の状況をご相談下さい。
2. 次にケースワーカー（相談員）が詳しい話を伺い、その後ご予約をお取りします。

※現在他病院を受診している、もしくは受診していた場合は紹介状が必要になります。

※当日の状況により、予約内容が変更になる場合がありますので予めご了承ください。

*精神科外来は完全予約制になります。

*当日のご予約は行っておりません。前日までにご予約をお願い致します。

予約電話対応時間 月～土（祝日を除く）9:00～17:00 TEL.029-298-0175

■=内科

関連施設

地域生活支援事業部

障害福祉サービス事業所 自立訓練(生活訓練) ショートステイ

「くりの実」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505 TEL&FAX.029-295-1834

障害福祉サービス事業所 グループホームくりの木

「第一くりの木」「第二くりの木」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1 TEL.029-295-7652

「くりくり」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1 TEL.029-295-7680 FAX.029-295-7681

「くりあん」 〒310-0004 茨城県水戸市青柳町3429-2 TEL.029-231-2280 FAX.029-231-2281

認知症デイサービス

「クリクリ瓜連」 〒319-2103 茨城県那珂市中里1365-7 TEL.029-270-9550 FAX.029-270-9558

「クリクリ住吉」 〒310-0844 茨城県水戸市住吉町20-6 TEL.029-248-1001 FAX.029-248-0215

「クリクリ市毛」 〒312-0033 茨城県ひたちなか市市毛上坪1186-2 TEL.029-275-0262 FAX.029-275-0263

「クリクリ青柳」 〒310-0004 茨城県水戸市青柳町3923-5 TEL.029-231-7066 FAX.029-231-7067

小規模多機能型居宅介護施設・認知症グループホーム

小規模多機能ホーム「クリクリ」・認知症グループホーム「クリクリ」

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰140-17 TEL.029-352-0016 FAX.029-298-7750

認知症疾患事業部

アクセスマップ

